

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370500393		
法人名	有限会社 スマイル・タム		
事業所名	グループホーム 赤い屋根の家		
所在地	岡山県笠岡市大井南25-11		
自己評価作成日	平成23年9月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3370500393&SCD=320&PCD=33
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社東京リーガルマインド 岡山支社
所在地	岡山県岡山市北区駅元町1-6 岡山フコク生命駅前ビル
訪問調査日	平成23年10月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「みんな一緒に楽しい笑顔 ゆっくりのんびりと出来ることは自分らしく頑張ろう」という、生活に密着した理念を掲げ「悲しい時は一緒に悲しみ、嬉しい時には共に喜び、不安や寂しい時には傍に寄り添う」という手のひらのぬくもりを感じられる介護に取り組んでいる。
入居者と家族の良きパートナーとなれるよう努力し、人生の最後に出会った人として「あなたに会えてよかった」と思えるような介護を目指している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「自分達が年老いた時、自分らしく過ごせる場をつくりたい」そして自分の親をどんなふうに見たいか。という想いから始まった。家族の視点で、温かい「手のひらのぬくもり」の伝わってくる介護が実践されている。勤続年数の長い職員が多く、共通の理念のもとで、チームワークも良く、落ち着いた穏やかな支援ができています。住み慣れた地域で、馴染みになった人たちと、その人らしい暮らしが続けられる様に力を尽くしている。希望があれば、ここで最後を迎える事もでき、その人らしい看取りも数多く経験してきている。本人の気持ちに寄り添い、家族の気持ちを汲み取り、職員が一丸となって取り組んでいる。普通に生きる、当たり前前の温かい暮らしが、ここにある。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		思 い	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	食堂やトイレ等、目に入りやすい場所に理念を掲示し意識向上を図っている。	わかりやすい理念で、日々の暮らしが楽しく穏やかなものとなる様に、お手伝いさせて頂くという姿勢が、職員の明るい笑顔から感じられる。「手のひらのぬくもりを感じられる介護」が、常に意識され実践されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	併設のデイサービスを通して地域との交流が出来ている。	閑静な住宅地の一角にあり、近隣とのつながりは難しい。併設のデイサービスに来られる方々と交流があり、利用者にとっても長年暮らしてきた地域での社会性も保たれている。月一回の交流サロンも地域の高齢者の憩いの場となっている。	交流サロンに来られる元気な高齢者の相談や情報交換とともに、近隣の若い方々にも高齢者や認知症について知って頂きたい。地域社会の福祉や介護のリーダーとなつての活躍を期待する。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎月第2土曜日には地域の元気な高齢者に集まってもらいボランティアで支援している。地域の中学生のいきいきチャレンジや高校生のインターシップを毎年受け入れている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	日々の活動状況、入居者の状態、今後の課題等についての報告や話し合いをし、地域の方々に理解をしてもらっている。	年間二回、市役所、町内会長、家族会会長、などの出席を得て開催されている。	10年という大きな山を越え、さらなる第一歩として運営推進会議の有効な活用を期待する。家族や職員の参加も視野に入れ、たくさんの意見や課題が話し合われる意義のある会議となる様考えて欲しい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所の担当者の人とは些細な事でも相談にのってもらっている。何でも話し合える関係作りをしている。	市担当者とは、長年の実績と熱意で信頼関係が築けている。困った事、疑問に思う事など気軽に相談でき、情報の収集など連携ができています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間・早朝以外は施錠していない。利用者の安全確保の為にどうしてもベッド柵の必要な人にはベッド柵に関する同意書を家族にもらっている。又、言葉掛けなども気をつけている。	職員全体が何が身体拘束にあたるのかを理解し、利用者の側に立ったケアを心掛けている。点滴の針を抜くおそれのある時には、職員が手をつないでいるなど心の通った配慮がなされている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	これから勉強していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行い、理解・納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年3回「スマイルメール」という新聞を発行し、家族さんにも送付している。又、毎月の請求書の中に一人ひとりの1ヶ月の様子、写真を入れて知らせている。	毎月渡される手紙や写真は、家族に安心と信頼をもたらせている。笑顔の写真や、日々の暮らしの様子の良くわかる手紙を見る事で、話しやすい雰囲気にもなっている。職員も積極的に話しかけて、意見を聞くように努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	合同スタッフ会議を月に1回行い、親睦会も年3回位設けて職員の意見や提案を聞き入れている。	代表者や管理者と職員は同じ目線で、同じ目標を見ている。職員が、意見や提案を言いやすい環境にも配慮され、一人ひとりが、考えて仕事のできる環境になっている。信頼関係のもとで、より良いグループホームを目指して努力している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者はスタッフ会議に同席して、スタッフの意見・希望を聞き入れている。自己評価のアンケートも年2回行なって、個々の希望を聞き入れるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	自分たちで年間研修計画を立てて研修の取り組みをしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の取り組みをしていたが今は続いていない。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	まず利用者さんが私達を信頼して下さるよう、ゆっくりスキンシップを取りながら、話を傾聴するように心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前調査時・入居日に時間を取り、家族との話し合いに努めている。又、電話でのやりとりも頻繁に行なうようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族の話を真剣に傾聴して家族の要望に応えられる支援を見極め対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物たたみとか野菜の皮むきなど、その人が出来ることを見つけ一緒に行なっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者さんの現状報告を常に行なって、家族の方をまきこんで一緒に考え、行動とれるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の意向のもと、出来るだけ支援しているが全員とはいかない。	面会に来てくれた方とは必ず一緒に写真を撮り、思い出として残すようにしている。希望があれば、近くの美容院に出かけたりしている。併設のデイサービスで、地域の顔なじみの方や友達との交流もある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一緒に歌ったりゲームをしたりして、教え合いながら行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用終了後もお見舞いに行ったり季節事のハガキを出すなど努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	赤い屋根の家独自のアンケートや様子観察から入居者一人ひとりの思いを理解しコミュニケーションを大切に穏やかな対応をしている。	一人ひとりの思いや意向に寄り添う姿勢を大切にしている。廊下を行ったり来たりする方に寄り添う職員の姿が印象的だった。穏やかな毎日を過ごして頂く為に、思いを聞き、理解する傾聴の姿勢も大切にされている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前・入居後において、家族の方と時間の許す限りゆっくり話し合い、その人の生活歴を聞くよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの思いを大切に個々の対応をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	個々の入居者に合わせた支援を皆で考え、現状に即した介護計画を作成している。	6か月ごとに見直しを行っている。1か月ごとの短期目標も毎日チェックしている。身体状況だけでなく、微妙な気持ちの変化にまで配慮された現状に即した介護計画となっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録を几帳面に記録し、又スタッフ同志の注意すべき事もノートに記録し、全員で共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	出来る限り取り組んでいる。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	努力していきたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医院との密接な関係があり、いつでも相談に応じてもらえる。急変に対しては往診もしてもらえ、安心を得ている。	かかりつけ医に受診の希望がある場合は、原則として、家族の付き添いをお願いしている。継続的な訪問歯科診療の成果が上がってきている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	面会に行って担当の先生と連携を取るようになっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族の要望をしっかりと聞き、あらゆる相談に乗って家族の方が納得されるよう努めて、終末期を迎えている。	状況の変化ごとに、家族と話し合い後悔のない様支援を行っている。医師、看護師、職員、家族で、その人らしい終末期を迎える事ができるように力を尽くしている。家族の気持ちを汲みとり、心を込めた看取りを数多く経験している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ヒヤリハットを積極的に書き、原因と対応・今後の対策を検討し、問題発生防止に繋げていこうとしている。昨年普通救命講習をスタッフ全員で取得した。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防庁から頂いたDVD「火災時あなたはこうする！」を全員で観覧して勉強している。夜間時災害想定避難訓練を行っている。	年間2～3回実施している。避難の様子や消火器使用訓練など写真で記録を残している。救急救命講習も受けている。	

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者一人ひとりの思いを理解し、排泄時の声かけや気配り等は、介護計画にもきちんと明記されている。	一人ひとりに寄り添う言葉かけをしている。表現の仕方にも留意し、人格の尊重に努めている。表情の変化などにも気をつけ、本人のしたいことを尊重するような対応を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員は入居者が自由に思いを伝えたり感情を表したり出来る様に、一人ひとりの特徴やペースに合わせて優しく穏やかに接し、入居者の言葉や態度での訴えを見落とさず受け止めていく。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	昼食場面ではゆっくりと味わって食べている方、早く済ませてソファーに移動する方、食器を流しに片付けている方などおられ、職員は入居者のペースに合わせた支援を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	職員が美容院にお連れしてパーマ・毛染め等をされる方もおられるが、多くの方は職員が整えている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	下ごしらえなど職員と一緒に楽しんで準備をしている。が、強制はしないので決まった人になってしまう。料理に使っている食材の名前を知らせて食事の楽しみを膨らませている。	台所と皆の集うリビングが、一つの空間になっているので、食事を用意する音や匂いや、手際よく料理する職員の姿などが、家庭的な和やかな雰囲気となっている。献立も多種多様な家庭料理で、食事が楽しみなものとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考えた食事作りをしている。嚥下状態に合わせて形態を工夫し食べやすくしている。水分補給には気をつけている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	全員、毎食後に口腔ケアを行っている。義歯は毎夕食後、流水で洗ってから洗浄剤を使用し、清潔を保っている。歯科研修をして入れ歯の手入れの仕方、口腔ケアを学習している。訪問歯科診療治療を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者一人ひとりの状況を把握し、誘導や動作の援助を行い、自立に向けた支援を行っている。	丁寧に記録し、職員全員で状況を把握して、自立にむけた支援を行っている。一人ひとりの排泄のパターンは、夜間も把握され、臨機応変な対応がなされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックも記録して一人ひとりの状態の把握に努めている。便秘の人には水分補給したり乳製品や食物繊維を食べていただき運動も心掛けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	バイタルチェック等で健康状態を確認し、本人の意思を確認してから入浴の可否を見極めている。便失禁があればシャワー浴をその都度行っている。	入浴剤を入れて、温泉気分でお風呂を楽しんでいる。入浴が困難になってきた方は、家族と相談し、清拭で清潔保持に努めている。手足の細かい部分にも気配りし、全身の健康状態に気をつけている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	朝寝・昼寝を日程としている。利用者の方には居室やソファ等、希望の場所で休憩して頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は一日分を個人別に分けてケースに保管している。担当職員が一人ひとりに手渡し、飲み込みを確認している。又、薬の変更や新しく投与する際には、申し送り帳や薬袋等に記入し確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の下ごしらえや洗濯物たたみ等声掛けし、一緒に取り組む。又、ボール投げを毎日やり、気分転換と共に筋力低下防止に努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節のいい時季には週に1～2回のドライブに出掛けている。又、足のしっかりしている利用者は本人の希望に沿い、スタッフと一緒に15～20分の散歩を楽しんでいる。	近くに観音堂があり、桜の木もあり、お花見や紅葉が楽しめる。天気のいい日には、近くに散歩やドライブに出かけて、外出を楽しんでいる。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の自己管理が難しくなり、少額でも自分で持っている人はおられない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	こちらから電話を掛けたり手紙を書くことは難しい。家族からのTELは楽しく会話されている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用部分の壁面に季節の飾りをみんなで手作りして飾っている。	どこも家庭的な雰囲気のくつろげる空間になっている。愛情込めて育てているランやテーブルの花は楽しい会話の糸口になっている。また目に見える物だけでなく匂いにも気配りし、居心地の良い空間になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂・リビングにソファを置き、その時の気分で自由に座って過ごしてもらっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には自分の家で使い慣れた家具(タンス)等があれば置いて頂いて、その人らしく過ごして頂いている。	どの部屋も大きな窓があり、高台からの眺めが楽しめる。明るく掃除も行き届いている。馴染みの椅子やテーブル、筆筒などで落ち着いた部屋になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	部屋の入口には写真と名前を掲げている。トイレは「便所」と書いて、風呂は「ゆ」ののれんをかけている。		